

平成28年度あきた型学校評価

評価領域	交流及び共同学習
------	----------

(1) 地域学習の推進

重点目標	○新屋地域を中心とした資源を活用した特色ある教育活動 ・継続した活動を発展させ、新規の活動を実践する。 ・地域貢献活動を拡充させ、活動内容を工夫する。	P
現 状	・地域の理解が年々深まり、地域から行事等への参加・出店依頼が増えてきている。しかし、担当学部のみが参加している現状で教育活動（地域学習）として生かし切れていない面がある。 ・各学部の生活単元学習や作業学習で、地域の資源を生かした学習活動が増えてきている。まだまだ新屋地区には地元企業・事業所があり、拡充できるのではないかと考える。	
具体的な目標	・これまでの継続している地域学習に学部を超えた関わりを盛り込みさらに発展させる。 ・各学部の生活単元学習や作業学習に新規の活動を実践し地域学習を推進する。	
目標達成のための方策	・地域交流推進委員会が、全職員が共通理解できるよう、各学部等の取組を掲示する。 ・これまでの地域学習に、他学部等に関わる新たな取組ができないか検討し実践する。 ・様々なルートで新屋地区の地元企業等と生活単元テーマや作業製品とを結び付け、新たなつながり、新規の活動を実践する。	
具体的な取組状況	・鹿嶋祭り等、新屋の行事に学部を超えて関わる活動を実施した。 ・地域学習を核にした生活単元学習の長期単元、地元企業の依頼を受けた作業製品づくりを中・高等部で行った。 ・高等部作業班で除雪や公園清掃等の地域貢献活動を普段の作業学習に取り入れた。	D
達成状況	・新屋地区での学習活動が、例えば中学部1年の「新屋100%弁当」がマックスバリュでのおにぎり販売、中学部2年の「縄文プロジェクト」が埋蔵文化財センターの展示会の中で紹介されるなど幅広い学習に発展した。高等部の作業製品の販売の機会・注文が増え、結果として質の高い製品づくりにつながった。	
自己評価	(評価) B (根拠) ・共生充実事業の成果をプロジェクト組織に発展させたことで様々な新しい交流が生まれた。学校評価では教職員・保護者共に評価が高かった。 ・今後は交流推進プロジェクトに調整機能をもたせ、教育課程の充実や改善に結び付けていく必要がある。	C
↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	(評価) A (意見) ・年々、栗田の取組が地域に理解され根付いてきている。 ・様々な活動に積極的に参加する姿は、社会の一員であることを体感させる大切な教えになっている。 ・常に子どもの目線で考え進めていってほしい。 ・子どもの育ちや学びの観点から評価・反省し、次年度に反映させてほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・校内外の交流を充実させるために、交流推進プロジェクトでねらいや進め方を検討・調整する。 ・学校に招く交流や校内でも学部間の交流等、新たな交流及び共同学習を実施する。30周年の機会を大切にしていこう。	

(2)洗濯スキルの向上を目指した指導

評価領域	生活指導（寄宿舍）
------	-----------

重点目標	・ 寄宿舍生個々に応じた洗濯スキルの向上を目指す。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舎生個々のやり方が違うため一貫した指導ができない。 ・ 言葉による指導が中心で記録に基づく積み重ねの指導ができない。 ・ 1年目（昨年度）は洗濯に関する実態表を作成しグループ（能力）別の学習会を行い、指導の手立てを検討した。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舎生の実態に基づくグループ別の学習会を行い個々に応じた洗濯スキルを向上させる。 ・ 保護者の協力で長期休業中の家庭での洗濯スキルを向上させる。 ・ 指導の成果を検証し、洗濯テキストを作成し活用する。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習会計画の立案・実施、学習会シートの作成と活用、記録の整理と分析等を行う。 ・ 寄宿舍PTAで説明、長期休業中の実践（洗濯チャレンジ）、個別の生活指導計画の活用等を行う。 ・ 各グループの取組の検証、整理等を通して洗濯テキストを作成する。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキル別グループで学習会を6回、職員の研修会を10回を行った。 ・ 成果と課題等を話し合う研修会を9回実施し成果を研究紀要にまとめ、秋田県教育研究発表会で発表した。 ・ 洗濯テキストを完成させた。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導の記録の仕方を改善して情報を共有することで、生徒の学習会の内容や日々の洗濯場面での指導に生かすことができた。 ・ 成果を研究会で整理することで洗濯テキストを作成した。今後は、配付したテキストを生かし寄宿舍、家庭で活用する予定である。 		
自己評価	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・ 舎生個々に応じた職員の指導方法が統一されてきた。 ・ 多くの保護者が長期休業中に洗濯に挑戦し、記録を提出してくれた。 ・ 舎生の洗濯技能の定着が図られ、自ら自然に洗濯をするようになった。 	C
↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・ 寄宿舍が個々に応じてきめ細かく指導していることが分かった。 ・ 素晴らしい取組である。ぜひ家庭で定着するように継続して指導を積み重ねてほしい。 ・ 洗濯テキストはぜひ多くの方々に発信してほしい。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田県教育研究発表会で洗濯テキストに関心をもつ方が多かった。更に発信すると共に、洗濯指導の有効な手立ての蓄積と洗濯テキストの改善に取り組みたい。 ・ 家庭での自立的な生活に向けて洗濯以外の分野にも広げていきたい。 		A